

## 《本号の表紙絵》

### 『ガレノス全集』

(ジウンタ版, 1625年刊)

ガレノス(129~216)は古代ローマの医師であり、古代の医学文献を集大成するとともに、動物の解剖を精力的に行って、多方面にわたる膨大な著作を書き残している。『身体諸部分の用途について』全17巻はおそらく最もよく読まれた著作であり、そこに述べられた体液を中心とする生理学説は、19世紀に至るまでヨーロッパの医学に大きな影響を与えた。その第1巻が本号に資料として掲載されている。ガレノスは著作をギリシャ語で著したが、ルネサンス期に精力的にラテン語に訳され、16世紀以後に個々の著作としてあるいは全集として繰り返し出版された。全集はベネツィア、バヴィア、バーゼル、リオンなど各地で出版されているが、ベネツィアのジウンタ出版が最も有名で、1522年と1528年に全集を出版したが、とくに1541~1542年の版ではガダルディオの編集の元でギリシャ語原典の校訂と翻訳の見直しを徹底的に行い、大成功を収めた。ヴェサリウスはこの版で訳の改訂に携わっている。ジウンタはその後も繰り返し全集を出版した。表紙に掲げたのはジウンタ版ガレノス全集、1625年刊、全5巻のうち第1巻の扉である。表題には「ガレノスの著作の第一群は、人体の自然なもの、つまり元素、混合、体液、構造と性質の様子、諸部分の解剖・用途・権能・作用、さらに種子と胚の考察を含む。我々のこの新たな版では、ギリシャ語書物の校訂に従ったため、以前の版よりも多くの箇所であなからず追加と装飾が加えられている。」と書かれている。周囲に描かれた図はガレノスの事績を表している。上段の図は瀉血の情景であり、下段の図はブタを解剖しながら論争をしている場面である。左右の図には表題がついていて、左側では「父の不眠」、「ガレノスの師たち」、「肝臓の診察」、右側では「分利の予見」、「愛すべきものの見きわめ」、「闘技場の治療」(上から順)となっている。このデザインはガレノス全集に共通するもので、ジウンタの各版だけでなく、バーゼルのフローベン版でも用いられている。

(坂井 建雄)